

○ 「自らの活動で遊休農地解消をPR」

(奈良県・葛城市農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

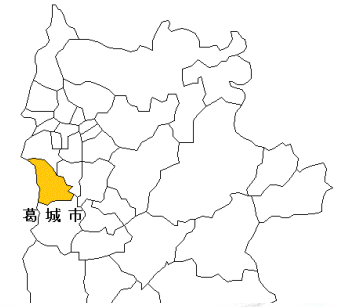
遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

- 大阪府に隣接する都市近郊地帯。農地面積は828ha。圃場整備が進んでおらず、形状がよくなく、面積も1000㎡以下の農地が多い。非農家への農地の相続が進み、遊休農地が増加傾向にある。
- 農地周辺に住宅が増加している地区があり、住民から荒れた農地に対する苦情が発生することがある。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 前年の農地利用状況調査の結果をもとに、遊休農地解消モデル農地を選定。土地所有者から農業委員会が農地を借り受け、委員自らが多品種の野菜の耕作を行った。現地では看板の設置、農業委員会委員の帽子着用による作業で近隣住民、耕作者へPR活動を行い、また近隣の保育所と連携し、園児たちにサツマイモの植付け、芋掘り体験をしてもらい食育活動も行った。
- 本市では栽培事例の少なかったユウカリの栽培にも取り組み、実証実験を行った。

3 活動(取組と工夫)の結果

- 遊休農地化が解消された農地を新規就農者にあっせんした。また共同作業により委員間の連携も深まった。
- 農業委員会の存在を知らない住民にも広くその活動を周知する機会となった。